

第四節 物資資源

其一 概要

朝鮮合併より分離まで三十七年間に總督の交代するごとく九代、武断政治に始まり文治政治に転じ産業興隆政治を経て太平洋戦争日鮮一体促進政治を経て過せり

即ち鮮内匪賊草賊の山間を策源地として横行するものを抜本的に討伐するためには交通網の發達先驅をなすに必す朝鮮内の道路と通信網は先づ開通設備せうれ討伐隊の匪情の迅速なる獲得と軍隊の機動の迅速とに便ならしめたる結果匪賊は逐年其の跡を断ず時に蜂起を囿るものありしも直に剿討せうれたり其の概要は道路の部に記述す

其の間先づ朝鮮農産振興開墾植林奨励に力を入れ農産の生産は激増し(附表第一第二)植林により秃山の皆無となり原娼林は林道開通に保護完全となり林産亦逐年増加せり

次に鉱産は金、砂金を主要鉱山とする産金奨励の浪に乗じて全鮮に澎湃として

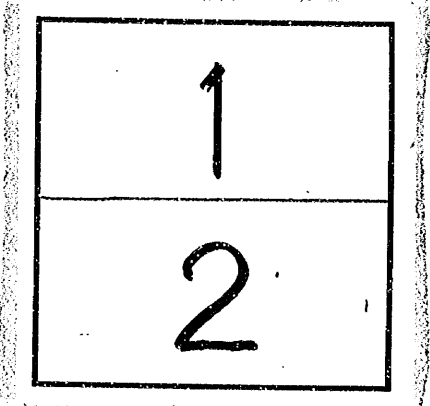
起りたるが次で「タングステン」「モリブデン」其の他の有用鉱石が第一次欧州大戦の軍需の波に乗って起れり、其の後野口壽氏の水力発電事業の発達と之に伴う化学工業の進歩並に「セメント」、紡績等日本資本の投入により各種産業共に飛躍的進歩を遂げたり其の概要附表第一乃至第五の如し

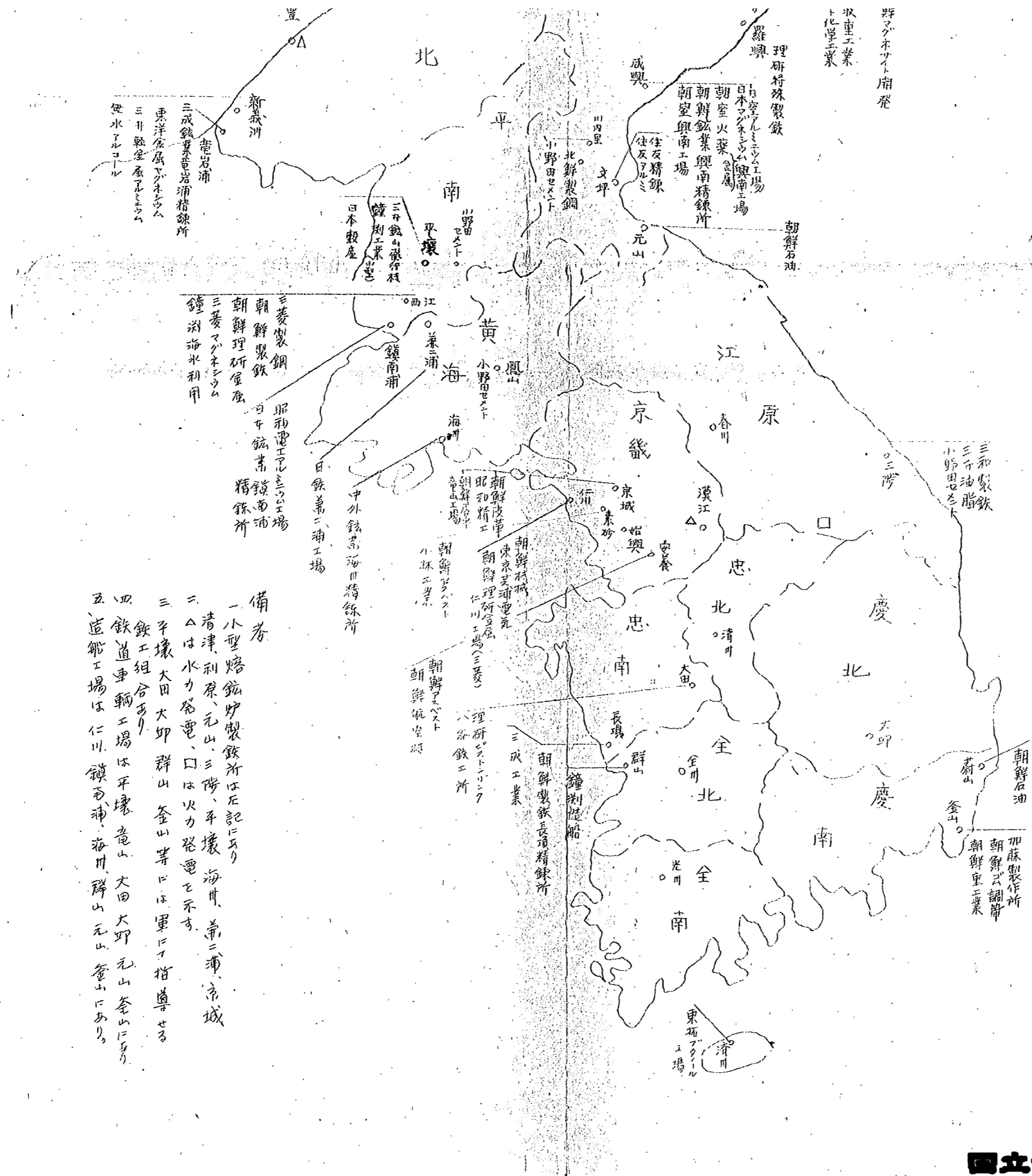
0113

附表

年	月	軍司令官	資源班主任	参謀	一覽表	行	事	總	督	海	軍
昭	7	4	林 銑十郎	中佐 豊島 房太郎	初ニテ資源班開設後ハ朝鮮軍司令部ノ増加セリ			宇垣 一成	ナシ		
8	12	"	"	中佐 山本 務							
9	"	植田 謙吉	"	"							
10	12	小磯 國昭	"	"	山本中佐転出後空位						
11	3	"	"	少佐 井原 潤次郎	軍司令部ノ編成内ニシテ総動員業務ニ服スベキヲ明示セラル						
12	4	"	"	参謀(少佐) 井原 潤次郎	参謀トナリ總督府御用掛ノ兼任トナル (支那事変勃発)			南 次郎			機中佐 桐野 義隆
13	"	中村 孝太郎	"	"	朝鮮ニ於ケル総動員軍需動員業務ヲ基盤ヲ確立ス						
14	8	"	"	参謀(中佐) 山内 二郎	軍需産業ヲ振起ス						
15	"	"	"	"							
16	10	板垣 征四郎	参謀(大佐) 清水 考太郎	(大東亞戰爭勃発)							
17	"	"	"	"				五月 小磯 國昭			海軍大佐 松本 一郎
18	"	"	"	"	軍需産業ヲ益々充實化スルト共ニ決戦ニ備フ						
19	12	6	参謀(大佐) 三原 七郎 参謀(中佐) 武志 重文					五月 阿部 信行			海軍少将 某
20	8	上月 良夫	"	"							

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	重要軍需工業配置(重工業)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	



朝鮮製鉄
 三井製鉄
 日本製鉄

三井製鉄
 東洋製鉄
 三井製鉄
 三井製鉄

三井製鉄
 朝鮮製鉄
 三井製鉄
 三井製鉄

中外製鉄
 日製製鉄
 中外製鉄

備考
 一、八ヶ岳製鉄所は在記にあり
 二、清津、利原、元山、三陟、平壤、海州、兼三浦、京城
 三、平壤、大田、大邱、群山、釜山等には軍用指導所あり
 四、鉄道車輛工場は平壤、海州、大田、大邱、元山、釜山にあり
 五、造船工場は仁川、鎮南浦、海州、群山、元山、釜山にあり

附表第二

年次	朝鮮ニ於ケル米消費高 (含軍用)		輸移出高	摘要
	消費高	指数		
大正元年	一四〇三九三〇八	一〇〇	五二五三二一	
同十三年	一四七四〇一四八	一〇五	四七五三三一九	
昭和六年	一五四八五一四七	一一〇	八四一二四一四	
同十二年	一二五七九三六八	九〇	〇九九六七〇四	
同十四年	一七六四六一九三	一二六	六八九四五〇一	
同十六年	一七五一四〇九六	一二五	四二五九〇〇二	
同十七年	一九一二三〇〇〇	一三六	五七七五三一三	
同十八年	一六五二七〇〇〇	一一八	八六八〇〇	内地ニナシ
同十九年	一九九五三〇〇〇	一一四	二八九五〇〇〇	

0117

附表第三

各種産業別生産額昭和六年同十二年對照表

種別	昭和六年		昭和十二年	
	生産額	同百分比	生産額	同百分比
農産物	七〇二、八五五 <small>千円</small>	六三	一、五四一、三六六	五二
林産物	五九、四一三	五	一、三八、七一〇	五
水産物	七七、五六二	七	一、八七、九九三	六
礦産物	三、一七四	二	一、一〇、四二九	四
工業物	二五三、二九四	二三	九、五九、三〇八	三三
總計	一、一四、四九五	一〇〇	二、九三七、七六六	一〇〇
				昭六年ヲ100トシテ指數

0118

附表第四

朝鮮財政經濟進展狀況一覽表

事項	明治四十三年	大正十三年	昭和十八年
事 項 指 數	四十四年 四八、七四一 <small>千兩</small>	一四三、七六一 <small>千兩</small>	二九三、六七一、九七五、三二九
予 算	二九、〇五三	一〇〇	三七、三九五
租 稅	二四、一四八	一〇〇	四四四、六五八、一八四、三、九四五、九四〇
貸 出 金	一〇〇	二二〇、三三七	一〇四六、四〇五、五九二、九、二三二
預 金	一〇〇	六三八、六三二	一、〇七〇、二六四、六〇一
貿 易 額	一〇〇	一五八、〇、八二三	五二八、六、四八五、六三二
生 産 額	一〇〇	二五八、五八四、一、六二五	三、〇〇九、〇六八
全社私資本金	一五、九〇九	二、〇〇九、〇六八	三、六三二

0119

附表第五

朝鮮重要鑛物埋藏量推定

鑛種	品位	埋藏量
タングステン鑛	六五%	八万二千屯
水鉛鑛	八五%	八千屯
銅鑛	〇七%	七百二十三万八千屯
鉛鑛	一〇%	三千四百十方屯
亜鉛鑛	一九%	三千九百三十八万屯
硫化鐵鑛	四三%	五百二十八万屯
マグネサイト	九五%	四百〇七方屯
明礬石	二四%	五百五十万屯
重晶石		三十三万屯
鐵(茂山)	三七%	十二億屯

其二 工業

工業は萬般な事も特に軍需と密接なるもの数種に付其の概要を記述して參考とす

一 紡績織布加工工業

二 セメント工業

三 皮革工業

四 製鉄工業

五 兵器工業

六 造船工業

七 航空機工業

八 液体燃料工業

九 食品工業

イ、罐詰
ロ、清酒、味噌、醬油

0121

十、菓品及衛生材料工業

十一、輕金屬工業

十二、稀有金屬

一、紡績織布加工工業

第一次欧州大戦後の經濟恐慌による紡績工業操短統制強化の事情に刺戟せられたる業者は朝鮮に工場を建設し朝鮮女工と鮮産棉花(混用)の利用をも考慮したる結果尤の如く紡績工場現出せり

- 東洋紡績株式会社 仁川工場
- 鐘淵紡績株式会社 京城工場
- 鐘淵紡績株式会社 光州工場
- 朝鮮紡績株式会社 釜山工場
- 京城紡績株式会社 怡興工場 (半完成)

之等工場中京城紡績は朝鮮実業家金永洙を社長とするも他の四工場は日本資本と日本技術により建設稼業し鮮の需要を充足するのみならず軍用

被服(軍手、靴下を含む)用原料を生産せり。又其の工場に附設せる加工縫裁工場は軍需民需を占むず加エセリ。別に京城には野田被服工場、朝鮮被服工場ありて軍服を縫成し平壤、大田には軍手靴下の民間工場(朝鮮人)ありき
 ニ、セメント工業

道路鉄道港湾建築の発達による「セメント」の需要増と日本本土に於ける強度の統制操短の外に立って自由なる生産をなさんとす。業者の意欲とは朝鮮に多量に賦存する石灰岩を利用する「セメント」工場を建設するに至れり

- 小野田セメント株式会社 平壤工場
- 同 社 川内里工場 (咸南)
- 朝鮮小野田セメント株式会社 古茂山工場 (咸北)
- 同 社 三陟工場 (江原)
- 朝鮮セメント株式会社 海州工場
- 朝鮮浅野セメント株式会社 鳳山工場 (黄海)
- 鴨綠江水力發電会社 工場 (平北)

資本及技術共に日本人之を担当し軍需及民需に応ずる外日本軍の作戦に伴う中華及南方作戦地の急需にも應じたり

0123

三、皮革工業

朝鮮産牛皮の鞣成と軍用靴の生産工業は朝鮮皮革株式会社永登浦工場
(后にタンニン抽出工場を附設し自給自足に努めたり)を最大とし渡辺皮革京城工
場、裕豊商會製革工場の外大邱、大田其の他に小工場十餘あり其の主要なる
ものは日本入資本と技術による

四、製鉄工業

曰露戦役後三菱は黄海道鉄山を開発し之に現地兼三浦にて製鉄、製鋼、製
軌條事業を丕営せしか後日本製鉄業法の改正により日本製鉄所に合併せ
られ製軌條設備は八幡に移送し製鉄作業をなみに過ぎざりき

昭和十二年日本高岡波重工業株式会社は朝鮮軍司令部の強力なる支援を
得て咸北城津に高周波電気精鉄五千噸計画の工場を置き十三年創業し
次で四万五千噸生産計画に拡充せり 会社は鮮産「タングステン」の大部を入手

し利原鉄山の粉鉍を処理して優香なる高速度鋼、特殊鋼其の他を生産し軍需に貢献する外鉄道の場其の他民間金属加工工場に供給セリ 後原料不足に鑑み子会社朝鮮鉄鋼株式会社を清津に設立し茂山鉄山の粉鉍より原鉄を生産セリ

茂山鉄山(十二億噸と稱せらる)は三菱之を所有したるも貧鉍且磁鉄鉍なるため製鉄採算に懸念ありて閉塞するに至らざりしか朝鮮軍は總督府との協同推進により三菱清津工場を建設し「ルツペ」式により製鉄し「ロータリー」ニ基を設備セリ別に茂山鉍石を利用するため日本製鉄株式会社清津工場を昭和十二年着工昭和十五年火入式を行ひ年産三十五万噸製鉄、製鋼一貫作業を開始セリ 茂山鉍山及之を輸送鉄道夫々整備し清津は製鉄都市たると共に鉄及鉄鋼移出港として殷賑となれり

次で昭和十七年に至りては小型熔鉍炉其他を以てする製鉄の急務に直面し在る工場の建設を見るに至れり

朝舞製鉄所文坪工場	(咸南)	小型炉
是川製鉄所三埜工場	(江原)	小型炉
鐘淵製鉄所	(江原)	小型炉
鐘淵製鉄所平塚工場	(平塚)	電気炉
大同電気製鉄所	(平塚)	電気炉
理研特殊製鉄所	(咸北)	塗田式
渡辺製鉄所	(京城)	小型炉

鉄生産の概要附表第六の如し

附表第一

米麥收穫高一覽表

年次	區分	米		麥		大豆	
		收穫	高	收穫	高	收穫	高
明治四十三年		一〇四〇五六一三	〇七六九	四七四六九五六八二四	二七四六三五八五六三		
大正六年		一三六八七八九五	〇八九一	六九三一二五五九一四	四三〇九六七六一五八四		
同十三年		一三二一九三二三	〇八三五	七一六八〇〇〇八八二	三六五七七六三三四五八		
昭和六年		一五八七二九九九	〇九四八	七八一三一二七〇八六八	四一三一七九五五二一		
同十三年		二四一三八八七四	一四五四	七四一七二七八八八二	三八六七八三五五〇四		
同十四年		一四三五五七九三	一六六三	七五七〇四八八九一三	二五三三七八二一六一		
同十五年		二一五二七三九三	一三一	六八八三一六二八五二	三二六六一〇七四九一		
同十年		三四八八五六四二	一五一二	六五二九八三三九〇五	二九六九五八九一四五		
同十一年		一五六八七五七八	一三九三	五一三一五四四四六九六	一七一四八八一三一		
同十八年		一八七一八九四〇	一三三四	四三一九一一九五七三	二二四八八九七三六九		
同十九年		一六六〇六二六五	一三五五	七六六四七五六九七〇	二七三二四四〇四四四		

0127

附表第六

一、鉄鉱生産実績及将来の見込

(單位千吨)

種別	年度					十八年度 予定 実績	十九年度 目標	全上 上期実績	全下 下期見込
	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	十八年度				
銑鉄	二八七	二三四	二七八	三六五	六七〇	五二八	九六〇	三二〇	三六三
鋼塊	一〇三	一一二	一一七	一二八	一二六	一〇八	一三五	五七	六一
製鋼用鉄	一四	三七	五三	九二	八三	五三	一二六	三〇	四二
鉄鉱石	九三九	一〇九四	一六九三	二二七七	三〇五〇	二三四六	四九五〇	一八八七	一九八〇

二、物動決定額(朝鮮)

(單位千吨)

年度別	銑鉄	普通鋼材	特殊鋼材	合計
十四年度	三一〇	九〇	一一五	四一五
十五年度	二五〇	八〇	七〇	三九〇
十六年度	二七〇	九〇	一三七	四七〇
十七年度	三九六	一〇〇	二〇〇	六九六
十八年度	六七〇	一〇六	二〇〇	九七六
十九年度	七〇〇	一一〇	二五〇	一〇六〇

三、朝鮮鉄鉱石増産計画

(單位千吨)

鉱山名	十六年度	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	二十一年度
茂小	九九〇	一三五〇	一五〇〇	一三〇〇	一五〇〇	一五〇〇
端川			五〇	一〇〇	一〇〇	
利原	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
襄陽	八〇	一〇〇	一五〇	四〇〇	五〇〇	
三和	三〇	七〇	一五〇	八〇	一〇〇	
价川	一九〇	三〇〇	三五〇	七〇〇	七〇〇	
下聖	二〇〇	二六〇	二八〇	七五〇	八五〇	
載寧	一〇〇	一五〇	一五〇	三〇〇	三〇〇	
北青				三〇〇	三〇〇	
莫々地	一九〇	一七〇	一三〇	二七〇	三二〇	
計	三〇八〇	三七〇〇	三〇五〇	四一〇〇	四〇〇〇	

五 兵器工業

- (4) 平壤兵器製作所は日本軍が滿洲に作戦する場合日本軍の打敵藥莖と日本軍上に送附するの煩を避け戦場近く之を複製する目的を以て之に適する簡便なる設備を以て平壤に開設せられたり之が爲民間に外註すべき部品を稀にして下請工場培養の基幹より得ざりしが朝鮮産檀木を日本産檀の代用として榴霰車輛を製造する外野砲彈丸の作製填実作業を昭和十二年開始しこれに逐次外註も多くなり民間工業培養の気運醸成せられ朝鮮に於ける金屬加工工業を牛耳るに至れり
- 仁川工廠設置後は之に包轄せられ益々其の機能を發揮せり
- (5) 仁川陸軍工廠は朝鮮軍及京城仁川間ノ官民ノ熱意か日本陸軍省ノ認むるところとなり昭和十四年着工したるも主として小銃彈藥、小口径火砲彈藥、銃劍、手榴彈、輕車輛の製作を爲し朝鮮下請工場を全面的に培養育成せり又潜水艇急造の要水に於いて仁川朝鮮機械工場を監督して其の完成を圖れり当工廠に於ては朝鮮青年を工員及工員見習とし教育

訓練し精神的にも亦技術的にも向上確立の跡著しきものありたり特に朝鮮工員に自信ある技術と与へ長夜の夢より醒したる功績は偉大なりと謂ふべし

仁川工廠の其の設備内容が前述の如き種類の兵器彈薬の製造に即応するものなりしと共に其の平時保有する資材も各種多様にして手榴弾用の銃砲彈鋼、小銃彈用ニツケル銅等は其の中多量のものなり

又完成せる兵器彈薬は米軍の命令により海中に投擲して跡なく素材類は完全なる表を附して米軍に手交を終れり

又下請工場に対する債権債務は工廠長(陸軍少将和氣忠文)能く之を処理し九月六日迄の二十日間其の大部を完了し極めて一部は今日以後大田に於て完了し昭和二十年十月日本に復員せり

之が爲仁川造兵廠関係に於て債務の残れるものは東北朝鮮戰鬥区域内僅少のものなるべし全地方は遠隔せると且金属加工工場稀にして仁川造兵廠の下請は咸興の渡辺鉄工所(日本人渡辺某経営)以外朝鮮人の経営工場

は皆無きなり

之に及し仁川造兵廠が咸鏡北道城津にある日本高周波重工業株式会社城津工場(特殊鋼年産四万五千噸)に成島として貯蔵せしめたる特殊鋼就中高速度鋼は倉庫に相当量残存しある見込みとして日本高周波重工業株式会社財産目録を参照せば明瞭なるべし

仁川造兵廠(平壤製作所及下請工場を含む)の生産品種数量は附表第七の如し

0131

附表第七

主要生産品種数量

小銃	四、〇〇〇挺(一月)
銃剣	二〇、〇〇〇挺(月)
小銃実包	七〇〇、〇〇〇発(月)
砲用弾丸	三〇、〇〇〇発(月)
軍刀	二、〇〇〇挺(月)
車輛	二〇〇輛(月)
皮革麻製品	一〇、〇〇〇円(月)
兵器の修理	一〇、〇〇〇円(月)
舟艇	二五〇(昭和九年及昭和三十年度分とす)
無線器	二〇〇組(昭和三十年度分)

生産総金額	昭和十七年	三、七〇〇万円	昭和十八年	三、六三〇万円
	昭和十九年	四、五〇〇万円	昭和二十年	一、五〇〇万円

民間工場

民間工場旋盤数は昭和十年度に於て僅に三百七十基に過ぎざりしが時令々軍需工業興隆の機に際会したると朝鮮銀行が滿洲より朝鮮に引揚げ其の投資方面を本工業に指向し時局の急需に欠けたると新義州、平壤、鎮南浦、京城、仁川、大邱、大田、釜山、元山、咸興各地の小鍛冶屋組合を組織し砲彈、手榴彈の製作に着手し其の利潤倍り難きもつよりて之等組合工場は逐年拡大増加し昭和十七年末には旋盤六千五百余基に激増したり

此の間朝鮮の産金奨励、鉦山開發の波に乗じ、鉦山機械の朝鮮誘致具體化し朝鮮機械製作所^{仁川工場}、仁川工場、朝鮮鑿岩材料会社、仁川工場、朝鮮製作所、関東機械製作所、東洋高工株式会社、平壤、及鎮南浦工場、北鮮製鋼所等日本の資本と技術に依り完成したる外各地の小下請工場拡大し其の生産技術も逐年向上せり

0133

六、造船工業

朝鮮に於ては保有船舶少数なると日本廣く南洋國、長崎等近接せる都市に造船所ありたため造船工業は容易に發達を許さざりしか昭和十一年金山に三菱造船所(三千噸級船台二基)開設したる後昭和十六年太平洋戰爭發生し機帆船の急需に因するたため朝鮮造船株式會社の元山工場、朝鮮ヂーセル株式會社群山工場が日本資本により設立せられたる外潜水艇製造のため仁川に朝鮮機械製作所工場に船渠を附設して其の製作を開始し終戦前に一隻を進水し得たり

然れども機帆船及潜水艇共に船体を生産することに止まり機関始め裝備品一切は日本内地の工場生産に依存セリ

七、航空機工業

昭和十一年日本より昭和飛行機株式會社平壤工場と平壤東南郊美林

里に設置し練習機(木製)の製作を開始し一時中休したるも昭和十八年更に設備を改善し製作成績上うれんとして終戦に至れり

朝鮮実業家朴興植は日本政府の國庫補助二千五百萬円、東京大阪日本人投資一千五百萬円、朝鮮内日本人及朝鮮人の投資一千萬円を以て昭和十八年朝鮮飛行機株式会社工場を京城南郊安養平地に建設し木製練習機の製作に着手したるも未だ一機を完成せざるに終戦となれり

別に朝鮮人慎飛行士は海軍の支援を得て慶南鎮海に機体工場を建設し部分品の製作をなせり

又大邱には日本人八谷勝平を社長とする大邱飛行機株式会社建設中に終戦となる

之等は平壤航空廠の指導下に置き昭和十九年以後は京城に設置せし朝鮮陸軍航空監督部の直接指導と朝鮮軍の間接指導により育成せり

孔液体燃料工業

(4) 石油

ライジングサン株式会社及スタンダード石油株式会社は釜山、平浦、群山、仁川、文津、咸南、嶺南、海軍に貯油槽を有し、昭和六年日本石油自給自給政策の爲め閉鎖し、朝鮮石油株式会社釜山工場に於て輸入原油を精製配給せり。

後會社は南鮮蔚山に工場を新設中終戦となり、釜山工場はソ連に解体移送せられたり（工場長坂中多計、石油自給政策に連行旨政還せり）

(5) 人造石油

咸北、尙合地炭田の褐炭を原料とする人造石油製造工場を尙各地に建て、水素添加による人造石油の製造に着手したるは十分なる成功を見るに至らず、石炭乾溜法による永安工場と共に生産したる石油の数量反り如し。

人造石油生産実績

年	揮発油	軽油	重油	揮発油	軽油	重油
十七年	一九五	三五八	四〇七	六六九	二、二三	三四九一
十八年	二三八	三七五	三二六	一、一三	三、五七	二、二四八
十九年	六一	一一九	二四九	三、四三	三、二〇〇	一

單位 升

(ハ) 酒精、ブタノール

無水酒精製造株式會社新設中工場は示代より無水酒精生産一〇〇五
を天東洋拓植林株式會社清洲島工場は清洲島産甘藷を原料としてブタ
ノール月産六〇〇〇立を生産せり

(ニ) 松根油、ヒマシ油、桐実油、糠油

松根油は各道に夫々一ヶ所工場を設置せり

ヒマシ油は全縣に殖裁採取したるヒマシ突を原料とし京城永登浦に朝鮮
脂油株式会社五場にて精製せり
棉実油は不街に藤油は釜山、不浦、蔚山、仁川、嶺南浦各箇米所に附
設したる搾油工場にて製造せり

十 食品 五 業

(イ) 罐 詰

(1) 水産罐詰

従来縣出用トマトカーデレ及びカニ罐の外見ッハまよりの旨かりしが船
和十二年曰華事変に京城より第三十師團が北支に出征するに役會
として役米雇用に供せざりし蠶罐詰を雇商向に改善を加へて元山
にありし朝鮮罐詰工場（長如藤氏父子）に於て生産せしめたるに始
まり今工場に於て朝鮮産生芋芋より牛罐詰の生産をすることとし忠州及
釜山に牛罐工場を併設したる外竹甲罐詰會社亦羅亦五場にて筈

0138

牛糞の生産する外清州島の牛糞を以て清州工場にて牛糞及水産(鱈)鱈の罐詰を製造し軍用として納入せり

此等五業の振興に定じ東洋製罐株式会社を釜山に分工場を釜山に進出せしめ鮮味罐の需要に即応しむること、乍れり何れも日本資本と技術による

(四) 清酒、味噌、醬油、

朝鮮米を原料とする日本清酒は平壤、京城、仁川、蔚山、大田、清州、馬山、釜山等各地に於て生産せられ其の質も可成り高き為軍需として昭和十二年以後は多量に買上げられ其の資本及技術は日本人による

味噌、醬油も軍用として買上げられ其の主要生産地は京城にして日本資本と技術による

十一、藥品及衛生材料工業

朝鮮に於ける製薬工場は漢方薬を主生産とするもの多く洋薬製造に慣熟せざりしが陸軍は立寄工場を指導して各種の怪易なる薬品を納入せしめたり

特に成南函洞津に於ては鈴本工場に命じて明太魚の眼肉を乾燥粉砕とし夕ドラトに製菓したるものを「ミ」号劑として夜間視力増大用とし航空乗務員及夜襲部隊員用に提供好評を得たり

銜生材料として銅箔及脱脂綿を主とし仁川オタフク綿衣其他より納入せしめたり

十三、輕金屬工業

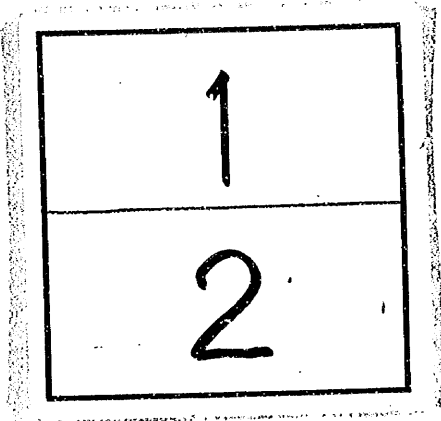
鴨綠江水力電氣の完成と併行して其の大電力を利用するアルミニウム、マグネシウムの精煉工業を振興すること、と新義州に三井輕金屬工場を、嶺南街に昭和造氣工業株式會社工場を又平壤、嶺南街の中間に西に旭輕金屬、江西工場を建設しアルミニウム及マグネシウムを生産中終戦とす

十三、稀有金属

昭和十一年以来朝鮮、暹羅はタンカステン、モリブデン、コバルト、タンタリウム、
ジリコン、リニウム、フェルプソン（ウラニウム）コングラ石、小笠原等の探鉱、
採掘に付て民間業者を援助し著々之が増産を成功せり殊にタンカステン、
ジリコン、コバルト、鉍は日本生産の大部分を占むるものにして重要性最大
なりフェルプソンは原子爆弾原料たるウラン取得の爲、黄海道、海州、蔚、蔚根
金山に着目し、理研に探鉱費を投與して採取せしめたるが別に島崎院附近に
全鉍賦存せるを発見したるも原子爆弾製造成功するに至らずして熄みたり
鉄鋼、石炭、軽金属、非鉄金属、石油及其代用品、化学薬品の生産、拡充并
画及産業別実績附表第八の如し

0141

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	生産拡充計画産業別実績調
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0142
0143

附表第八

		生産拡充計画				実績							
年度	種目	昭和16年度		比率	昭和17年度		比率	昭和18年度		比率	昭和19年度(前期)		比率
		予定	実績		予定	実績		予定	実績		予定	実績	
鉄	普通鋼(材)	90,000	91,511	101	100,000	110,170	110	100,000	101,922	102	44,900	44,521	99
	普通鋼(錠)	270,000	278,432	103	376,000	365,367	97	472,000	573,522	121	356,000	310,062	87
	普通鋼(塊)		116,545		130,000	127,845	98	126,000	107,535	85	58,500	57,216	98
	製鋼原鉄	55,000	52,786	96	74,000	58,513	79	92,800	53,992	58	35,900	25,515	71
	鍛鋼	4,820	4,326	89	3,000	3,099	102	5,000	3,517	70	1,700	1,416	83
	鋳鋼	12,150	10,794	89	13,000	12,412	95	12,000	14,578	121	7,000	7,081	101
	特殊鋼(材)	13,730	14,100	103	20,000	17,271	86	20,000	20,067	100	10,500	10,617	101
	フェロアロイ	1,930	2,291	117	3,000	2,596	87	4,960	6,171	124	3,800	5,402	142
	鉛	2,080,000	1,652,911	81	2,700,000	2,276,619	84	2,500,000	2,364,236	95	1,852,000	1,857,340	100
	錳	5,000	4,658	93	3,500	6,063	173	6,000	6,933	116	3,600	4,909	136
鋼	ステンレス鋼	220	310	140	400	439	110	450	665	148	320	477	149
	ニッケル鋼	1,800	338	19	42,000	3,577	9	24,000	2,621	109	10,720	19,338	176
	コバルト鋼				15,000	6,073	40	25,000	10,244	41	80	41	51
	マンガン鋼	800	762	94	18,000	12,761	71	19,600	24,225	124	12,000	11,305	94
石炭	有煙炭	2,900	2,854	99	3,000	2,730	91	2,900	2,432	84	1,320	1,118	84
	無煙炭	4,100	3,948	96	4,100	3,931	96	4,200	4,152	99	2,250	2,205	98
	アルミナ	7,500	5,902	79	9,000	6,320	70	8,559	7,612	89	6,100	5,577	91
軽金属	アルミニウム	3,016	3,119	103	7,500	4,411	59	15,859	12,528	79	9,535	8,712	91
	マグネシウム	380	232	61	1,750	571	33	1,559	750	48	897	500	56
	銅	7,592	9,858	130	3,500	3,821	111	4,450	3,282	74	1,720	2,150	125
非鉄金属	鉛	14,913	14,200	95	8,000	9,521	119	12,500	21,182	173	9,670	13,252	137
	亜鉛	9,028	6,650	74	7,000	8,611	123	15,000	18,581	124	8,897	12,577	141
	石炭	2,000	2,218	111	3,300	3,121	95	4,500	5,310	118	2,900	3,480	120
	螢石	42,000	35,816	85	50,000	39,300	79	48,000	69,374	145	33,800	42,391	125
	雲母	160	94	58	170	111	65	180	147	82	70	318	313
	燐状黒鉛	20,000	19,908	99	25,000	19,521	78	25,000	18,307	73	13,980	17,000	122
石油及其代用品	航空機油	6,330	5,173	82		1,700			7,596				
	普通機油	54,060	42,198	78		13,350			6,276				
	燈油		20,470			14,310			7,181				
	軽油		8,650			5,000			2,001				
	重油	6,936	21,376	308		18,310			14,366				
	機油		20,705			1,430			2,146				
	半固体機油		2,504			27,050			11,433				
	人造機油	7,200	591	49	1,980	800	40	1,800	910	51	1,158	1,094	94
	人造重油	21,800	11,819	54	5,100	2,381	47	3,700	3,749	101	1,743	3,000	172
	人造軽油				14,920	7,525	51	10,500	3,508	33	1,490	769	52
Y	無水アルコール	1,500	1,307	87	2,000	594	29	1,400	836	60	750	873	116
	含水アルコール								728		890	650	66
肥料	硝酸	3,350	6,677	199	7,700	4,826	62	1,100	4,816	437	3,000	2,832	94
	硫酸	13,000	13,670	105	13,600	14,000	103	14,700	10,745	73	2,000	7,464	373
化学原料	石灰	466,000	480,397	103	516,000	425,400	82	460,000	399,458	87	207,900	220,800	106
	セメント	1,240,000	1,176,080	94	1,455,000	1,156,000	80	1,400,000	1,175,000	84	550,000	618,945	112
硝	90%硝							12,000	1,157	10			
	40%硝							2,000	2,300	115			

